

生活文化常任委員会行政視察概要

平成30年8月1日（水）

於 磐田市クリーンセンター研修室

午前13時45分～15時30分

- 1 調査の概要・説明…………… 磐田市ごみ対策課長
磐田市ごみ対策課長補佐
磐田市ごみ対策課職員



「ごみ処理・余熱利用について」

当市からの調査事項に基づき、ごみ減量の取り組み・低炭素化推進の取り組み・余熱利用施設に関することについて担当者より説明を受けた。

磐田市クリーンセンターはストーカ式焼却炉とプラズマ式灰溶融炉を有するごみ処理施設で、焼却炉の処理能力は 224t/日（112t/日×2 炉）、平成 29 年度のごみ投入量は 38,810t である。平成 20 年から 10 年足らずで約 5,000t のごみが減量できた理由として、さまざまな啓発の積み重ねが市民意識の向上に繋がったことを挙げている。啓発の主な取り組みとしては、ごみ減量・リサイクル啓発 DVD の作成やごみ分別アプリの提供、啓発用雑がみ回収袋の配付、啓発プレートの小売店舗への設置等がある。DVD は約 13 分間あり、ごみ分別説明会で活用。紙資料の「分別ルールは説明できても、出したごみがどのように処理されるのかがわかりづらい」という課題を解消でき、なぜこの分別ルールがあるのか、について理解が得やすくなったとのこと。また、使用済みスプレー缶の穴開けを不要にする等の市民負担を減らす取り組みも行っている。

低炭素化促進の取り組みとしては、クリーンセンター内の発電設備による施設内の電力供給や余剰電力の電気事業者への送電、余熱利用施設への温水

供給や、「コンパクトシティ・プラスネットワーク」型の都市づくり等を挙げている。

余熱利用施設として、隣接する磐田市厚生会館（浴場）と磐田温水プールがある。温水プールは余熱を利用することで常時熱交換用の温水があり、水温の変化が少ないため施設運営がしやすく、ボイラ焚きと比較して経済的で環境にも良いというメリットがある。

2 主な質疑応答

問 ごみの指定袋導入の際の市民の反応は。

答 合併前からすでに各市町村で導入していたため、反発は起きなかった。啓発の積み重ねに加え、小さいまちでは業者が1者しかなく厳格な分別ルールが敷かれていたこともあり、元々ごみに対する市民意識が高く、ごみ袋への記名も根付いていた。

問 指定袋の販売価格は。

答 定価は20枚入りで300 150円、450 200円で、袋の製造にかかった費用しかかけていないが、独自に安売りをを行うスーパーやドラッグストアがあるので、価格については一概には言えない。他市では処理費用を上乗せして販売することもあるようだが、磐田市で行う予定はない。

問 見学時に見えた多くのペットボトルは助燃のために投入しているのか。

答 汚れたペットボトルは再生に回せないため、焼却せざるを得ない。あえて助燃のために入れているわけではない。ラベルが付いている程度であれば自動で取り外すことができるが、中が汚れているものは再生できない。

問 助燃のために何か行っていることはあるか。

答 平成26年から、それまで埋め立てていた硬質の廃プラスチック類を破碎しながら燃やせるようになったことや、乾燥させた汚泥を加えることで助燃効果は高くなったが、助燃剤として特別に何か入れているわけではない。

問 地元民との協定締結の状況は。

答 各地区と協定を結んでいる。加えて、厚生会館の運営を地元の協議会に依頼しており、その事業の中で周辺の草刈りや懇親会、視察等を通じて地元民の生の声を聴いて改善を図りつつ、信頼関係を構築している。

以上